

フィードバックの与え方が内発的動機づけに与える効果

真島 成美

我々の日常生活の中では、褒める・叱られるといった、言語的フィードバックを受けたり与えたりする場面が多々ある。一般的に、褒め言葉のような正のフィードバックは内発的動機づけを高め、叱り言葉のような負のフィードバックは内発的動機づけを低める。しかし、同じ内容のフィードバックでも、対面での会話か文字でのやり取りか、あるいはフィードバックを与える人が笑顔か真顔かといった個々の状況によっても、やる気に変化することがある。

本研究では、言葉(文字)のフィードバックを、笑顔写真と共にパソコン画面上に提示することで、課題に対する内発的動機づけがどのように変化するかを調べた。実験参加者は大阪大学に所属する学生26名であり、実験課題はパソコンで行うモグラたたきゲームであった。実験参加者が課題を行った後に、各条件のフィードバック(正のフィードバック—笑顔写真あり, 正のフィードバック—笑顔写真なし, 負のフィードバック—笑顔写真あり, 負のフィードバック—笑顔写真なし, フィードバックなし—笑顔写真あり, フィードバックなし—笑顔写真なし, の6条件)がパソコン画面上に提示され、その後パソコン画面上に質問紙が表示された。質問紙は課題に対する(a)内発的動機づけ, (b)有能感, (c)没頭感, (d)自己決定感を測定するためのものであった。実験参加者はすべての質問に対して7段階評価で回答した。フィードバック(正, 負, なし)も笑顔写真(あり, なし)も被験者内要因であり、実験参加者1人につき6条件すべてを1試行ずつ行った。

その結果、正のフィードバックのみを与えた条件と、負のフィードバックのみを与えた条件を比べると、正のフィードバックを与えた条件の内発的動機づけの方が有意に高かった。また、負のフィードバック条件において、笑顔写真がない場合には内発的動機づけが低下したのに対し、笑顔写真が同時に提示された場合には内発的動機づけが低下しなかった。この結果は、内発的動機づけにおける「挑戦性」と関連していると考察される。負のフィードバック時には、笑顔と言葉の内容が一致していなかったことから、実験参加者は提示された笑顔が嘘のものだと見抜き、笑顔からポジティブな印象を受けずに、笑顔の表出者は自分に対して悲しみや嫌悪感を抱いているという印象を受けた。これにより、課題の困難性と自分の能力のずれを感じ、その結果挑戦性が高まったと考えられる。挑戦性が高まると内発的動機づけも高まるため、結果として、笑顔の効果が負のフィードバックの効果を抑制し、内発的動機づけが低下しなかったのである。これは、与え方次第で負のフィードバックが内発的動機づけを高めるといふ、負のフィードバックの有用性を示唆している。

しかし、正のフィードバック条件において、笑顔写真なしの場合には内発的動機づけは変化しなかったのに対し、笑顔写真が同時に提示された場合には内発的動機づけが低下した。これは、笑顔から柔和で満足気な印象を受け、その情動が実験参加者に伝染したことで、実験参加者自身が満足感を得てしまい、挑戦性が失われた結果、内発的動機づけが低下したと考えられる。また、笑顔写真のみが提示された条件においても内発的動機づけが変化しなかったことから、本研究の範囲では笑顔そのものの報酬的価値は内発的動機づけを左右するものではなく、あくまで言語的フィードバックと組み合わせることでその効果が表れた。本研究では明らかに仕切れなかった点も多い。今後、内発的動機づけにおける笑顔の効果について、様々なことが明らかになる可能性があるといえよう。(基礎心理学)